●市長所信表明

皆さん、おはようございます。

本日、ここに11月定例市議会を招集いたしましたところ、議員各位にはご出席を賜りまして、お礼を申しあげます。

それでは、ただいま上程をいただきました、各議案につきまして、提案理由の説明を申しあげますが、その前に、今後4年間の市政をお預かりするに当たりまして、私の所信を申し述べさせていただきます。

私はこの度、市民の皆さまからのご負託をいただき、第21代草津市長として市政をお預かりさせていただくことになりました。初登庁以来、はや1か月が過ぎましたが、草津市長として、多くの方々にお会いする中、草津市のまちづくりに対する思いや期待など、様々なご意見をお伺いするとともに、本市が持つ可能性と市政に寄せられる期待の大きさを実感し、改めて、その責任の大きさに身の引き締まる思いでございます。

これまで草津市の発展に御尽力いただきました橋川前市長をはじめ、歴代の市長、議員各位、そして市民の皆さま、関わっていただいたすべての方々に、心から敬意と感謝を申し上げ、 これまでの歩みと成果を大切に受け継ぎながら、時代の変化や新たな課題に的確に対応し、次の世代に誇れる草津市のさらなる発展に向け、全力で取り組んでまいる決意でございます。

私は、市政を進める上で、大切にしたいことは、人と人の「つながり」でございます。人口減少、少子高齢化、自然災害への備え、地域コミュニティの変化など、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。人と人、地域と地域がつながることで安心が生まれ、つながることで挑戦が生まれ、そして、つながることで、新しい草津の価値を創造していきたいと考えております。

人、地域、大学、企業など、様々な主体が垣根を超えともにつながり、足し算ではなく掛け算の関係によって、これから先の10年、20年をともに描き、みなさまとともに誰もが安心して暮らし、挑戦できる草津を作ってまいりたいと考えております。

本市におきましても、人口構造の変化への対応、子育てや教育環境の充実、高齢者の健康と暮らしの支援、地域コミュニティの維持、公共施設や都市基盤の適切な管理など、取り組むべき課題は多岐にわたっております。

一方、本市には、大学や企業の集積、豊かな自然、歴史と文化、そして何よりも地域を支える多くの人々という、大きな強みがあります。

私は、こうした本市の強みをさらに伸ばし、

「すべてのこどもが、生まれ育つ環境に関わらず、安心して学び、育つことのできるまち」

「高齢者、こども、障害のある方など、支援を必要とする方を地域で支えるまち」

「公共交通の利便性、公共空間の魅力、防災に備え、移動しやすく、暮らしやすく、にぎわうまち」

「誰もが力を発揮できる働き方、地元の事業者、働く世代、地域産業を支えるまち」

「琵琶湖と自然を守り、次世代に引継ぐまち」

「市民に開かれた政治、わかりやすい行政、参加しやすいまち」

の大きな6つのビジョンのもと、市民が「ここで暮らしてよかった」「これからも草津に住み続けたい」「草津に関わってみたい」と思えるまちを、市民の皆様と一緒につくってまいります。

具体的には、橋川市政の健幸都市、「Well-Being」のまちづくりを継承し、「つながる草津」として、毎日の暮らしから草津の未来までを見据えて、まとめた10の政策の一つひとつを着実に連携させながら取り組んでまいります。

第一に、「子育てするなら、草津」です。

少子化や核家族化、地域とのつながりの希薄化といった社会状況の中で、孤立感や育児不安等を抱く妊婦・子育て家庭が増加しています。そのために、子育てをひとりで抱えず、家庭だけの責任にしないように、妊娠・出産の段階から子育て、学齢期まで、切れ目なくこどもと家庭を支え、誰もが安心して子育てが出来る環境を整えてまいります。

第二に、「こどもの可能性に、もっと投資」です。

これまで県会議員時代にも取り組んでまいりましたこども若者のチャレンジ支援は、私の重要な政策理念の一つです。色々な可能性を秘めたこども達がこれからの社会を生きていくにあたり、一人ひとりの「やってみたい」という意欲をしっかりと応援できるよう、学力の向上だけではなく、それぞれのこどもが持つ多様な才能や個性を伸ばせる教育環境の整備、フリースクール等との更なる連携、教職員が安心してこどもたちと向き合い、充実した教育活動が出来る学校づくりを推進してまいります。また、こどもたちが世界を知ることで草津をより深く理解し、世界とつながることで未来の可能性を広げられるよう、国際交流の取り組みにも力を注ぎます。これにより、こどもたちが世界に羽ばたく人材として成長出来る基盤を築き、地域全体で未来を支える教育の実現を目指してまいります。

第三に、「介護で、仕事や暮らしをあきらめない」です。

本市の高齢化率は全国や県内で比較するとまだ低いものの、着実に上昇傾向にあり、高齢者人口の増加とともに、働きながら親を介護する世代も増えています。こうした状況を踏まえ、介護に関する相談体制の充実とともに、仕事と介護の両立を支援する環境づくりを進めてまいります。介護をする人も、介護を受ける人も、安心して暮らせる地域社会となるように、医療・介護・福祉の連携強化や見守りネットワークの整備などの支援体制の整備を進めてまいります。

第四は、「年を重ねても、暮らしやすい草津」です。

誰もがいつまでも出かけ、学び、人とつながることが出来る上質な空間づくりを推進してまいります。地域の公園や図書館、まちづくりセンターなどの身近な公共施設を「まちのリビング」として誰もが気軽に集い、交流出来る場とすることで、人とつながれるまちを目指します。また、高齢者が安心して移動出来る環境整備やデジタル利用支援、健康づくりや運動機会の充実に取り組み、高齢者の知識や経験を地域の活力に生かす仕組みを整えます。

第五は、「車がなくても暮らせる草津」です。

私自身、車を運転しませんので、これまで公共交通機関をよく利用してまいりましたが、

特に日曜日や祝日にコミュニティバスの運行がないことに不便さを感じておりました。国では、全国での「交通空白」における経済損失が年間約10兆円に上るという試算を受け、対策を強化していく方針であるとの報道もございました。また、滋賀県が実施した公共交通の利便性についての県内企業へのアンケート結果では、公共交通の利便性の低さが人材確保の応募者数の低調や事業活動を支える面にも影響していると分析されています。これらを踏まえ、本市においても関係機関と意見交換を重ね、こどもから高齢者まで、誰もが移動しやすい地域公共交通の充実を目指し、AI オンデマンド交通の導入検討や新しいモビリティへの挑戦など、地域の実情に即した必要な対策を進めてまいります。

第六は、「0歳から100歳まで楽しめる、公園のあるまち」です。

公園は、人々が集い、年齢や障害の有無を問わず、誰もが心地よく過ごせるインクルーシブな居場所であることが望まれます。また、これまでの橋川市政で進めてこられた「ガーデンシティくさつ」の取り組みをしっかりと受け継ぎ、草津川跡地公園やロクハ公園のさらなる充実を図り、こどもたちが自由に遊べる空間を創出するとともに、誰もがくつろげる「まちのリビング」として穏やかで緩やかな時間を過ごせる上質な空間づくりを目指してまいります。

第七は、「草津で働く。草津で挑戦する」です。

本市はこれまで京都・大阪のベッドタウンとして発展し、現在も人口増加が続いており、多くの方に住みよさを実感していただいております。しかし今後は、単に「住むまち」にとどまらず、人材・企業・大学の力をしっかりとつなぎ、人と人、地域と地域のつながりを一層深めてまいります。また、JR 草津線沿線地域の連携強化など、まちを越えてつながることで、広域にわたる地域の発展が期待されます。さらに、次世代の技術革新や産業発展を支える理系人材の育成にも力を入れ、産官学連携によるスタートアップ支援やイノベーション集積拠点の創出を進めます。加えて、地域活動を応援する仕組みづくりを含めて、「仕事と挑戦が生まれるまち」へとグレードアップし、草津の魅力をさらに高めるとともに、地域の活性化につなげてまいります。

第八は、「災害に強い草津」です。

全国的に災害の発生が少ないと言われている地域でも、近年は線状降水帯による局地的な豪雨や地震などの大規模災害発生するリスクが生じております。地域、学校、企業との防災訓練を踏まえた避難所環境の改善、受援体制の整備や災害ボランティアの仕組みや連携体制づくりなど、復旧復興までを含めた災害対策を進め、いざというときにも、人と人がつながるまちを目指してまいります。

第九は、「暮らしを守り、必要な人に必要な支援を」です。

市民の皆さまの暮らしを守り、安心して生活出来る地域社会を作ることは、行政の最も基本的な使命であり、最も重要な責務です。昨今の物価高騰など暮らしを取り巻く社会環境の変化を踏まえ、子育て家庭や生活に不安を抱える方々、さらには市内の中小事業者など、本当に支援が必要な方々へ確実に届く支援体制の整備に取り組みます。ただし、安易に「何でも無料」とするのではなく、支援の対象や内容を見極めることで、市民一人ひとりの

生活の安定と安心を支え、市民に信頼される行政サービスの実現を目指してまいります。

そして最後の第十は、「市役所を、もっと市民の近くへ」です。

市役所は市民にとって「身近で分かりやすい存在」でなければなりません。そのために、手続きや相談が安心して出来る環境を整え、市民の皆さまが必要な支援や情報にスムーズにアクセス出来る体制づくりをより一層進めてまいります。また、職員が安心して働ける環境づくりも重要な課題です。職員が心身ともに安定し、働きやすい職場環境を実現することで、質の高い市民サービスの提供が可能となります。業務の効率化や職員の声を政策に反映させる体制を強化し、市民の皆さまに信頼され、職員が働きやすい市役所を目指してまいります。以上、私がこの度、市民の皆さまにお約束をした政策を中心に私の所信を述べさせていただきました。

これからの、市政運営にあたりまして、私は「出会いのまち草津から、つながるまち草津へ」をキャッチフレーズに、市民の皆さまの思いを丁寧に紡ぎ、まとめるコーディネーターとしてリーダーシップを発揮したいと考えております。多様な声を幅広く受け止め、対話を重ねることで、よりよい政策を実現し、草津市の未来を皆さまとともに創造してまいります。

私は、「失敗を恐れずチャレンジする」ことを座右の銘にしております。人が持つ力、そして地域が持つ力を最大限に引き出すためには、新たなつながりを積極的に築くことが重要です。また、市民の皆さまの挑戦をしっかりと後押し出来るよう、支援にも力を注いでまいります。そして、フィールドにとらわれることなく時には世界へ、広く草津の魅力を発信し、活気あふれるまちの実現を目指してまいります。

これからも広く市民の皆さまに寄り添い、市民の代表である市議会の皆さまとの政策議論を重ねながら、全職員と一丸となり、元気で魅力ある草津のまちづくりに向けて、全力を尽くしてまいります。市民の皆さまと議員各位の市政に対するご理解とご協力をお願い申し上げ、今後4年間の市政運営に対する所信表明とさせていただきます。